# 早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

| | |
|---|---|
| 申請者（ふりがな） | 大山　一樹　（　おおやま　かずき　） |
| 所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載） | 博士後期課程３年 |
| 発表年月<br>または事業開催年月 | 2025 年　9 月 |
| 発表学会・大会<br>または事業名・開催場所 | 日本健康心理学会第 38 回大会 |
| 発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること） | 大山一樹，西中宏吏，岸太一，北見由奈，野村和孝，嶋田洋徳 |
| 発表題目（※学会発表の場合のみ記載） | 負の強化によって維持される依存行動は予測できるのか |

発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）

特定の対象にのめり込み，日常生活に支障をきたす依存行動に関して，快情動への接近の機能を持つ正の強化による維持と，不快情動からの回避やストレス解消の機能を持つ負の強化による維持の２つに大別される。このうち，負の強化によって維持されている場合に，依存状態がより重症であることが示唆されており（Weatherly & Cookman, 2014），日常生活におけるストレスなどが，依存行動の重症化の要因の１つであることが推察される。

しかしながら，多様な依存行動は，どのようにして特定の依存行動として発現するのかは明らかになっていない。先行研究においては，PACE モデル（Sussman et al., 2011）によって，主に“Pragmatics”，“Attraction”，“Communication”，“Expectations”の４つの要因が影響し合うことによって，依存行動の特異性が構成されると唱えられているものの，実証的研究は十分でない現状にある。

そのため，依存や嗜癖に対する医学的理解と心理学的理解，ネット依存の背景要因，依存の維持や学習歴と予防，依存行動の移行や併存といった観点から，依存行動の特徴や背景，特定の依存へと至るプロセスについて，検討を行った。

※無断転載禁止